

令和3年度			
講習の区分	<選択必修領域講習>受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域	講習時間数	6 時間
講習の名称	【選択必修】ボランティア学習の指導と展開	講習形態	講義・グループワーク (WEB 配信)
開設者	長崎ウエスレヤン大学(4月より鎮西学院大学へ校名変更)	定員	30 名
開設日/時間	令和3年8月2日(月) / 8:50~16:45	会場	動画配信が受信できる場所。職場もしくは自宅など
主な受講対象者	学校種	■幼 ■小 ■中 ■高 ■特支	
	免許職種、教科等	■教諭、養護教諭	□特定しない
	職務経験等	□	■特定しない
講習の概要	学校、家庭及び地域の連携及び協働		
担当教員(講習代表者) / Eメールアドレス 岩永 <a href="mailto:iwanagah@wesleyan.ac.jp">iwanagah@wesleyan.ac.jp</a> / TEL 0957-26-1234 担当教員：岩永秀徳(現代社会学部 社会福祉学科)			
担当教員(分担担当者等) 力久 愛(現代社会学部 社会福祉学科)			
<b>講習のねらい/講習方法/講習到達目標</b>			
講習のねらい： 福祉の意味・障がいに対する真の理解を深め、相手を思いやる心を育て、ボランティアマインドの重要性や人間関係などのコミュニケーションの在り方を学ぶことにより、福祉教育がもたらす「あるがままに」「あたりまえ」の福祉教育とは何かを学び、教育の本質を考える。また新指導要領にある「地域協働」の在り方を学ぶ。			
<b>講習方法：</b> ①講義方式 / 「福祉とは…」 「共に生きることとは…」 「福祉教育とは…」 を学ぶ ②実践体験 / 「キャップハンディ体験」として、アイマスクなどを使用し、疑似体験の手法と教えるべきポイントを実践の中から「みんなみんな同じ人間 みんなみんな違う人間」学ぶ ③ワークショップ/ 学んだことを「授業計画」として班ごとに作成し発表。グループワークで評価しあう。 ④試験 / 今日学んだことを試験問題として取組み、振り返りを行う			
<b>講習到達目標：</b> ①「福祉」の真の理解 ②疑似体験の活かし方と教え方 ③障がいの理解とコミュニケーションの重要性を習得する			
講習内容(概要) / 講習計画(時間毎の講習内容を含む) / キーワード			
講習内容(概要)： 障がい児者福祉のユニバーサル・デザインやボランティアの視点は、福祉・人間共育の原点であり、あらゆる場面で子どもや生徒と接するときに必要になるスキルです。本講座では、実践活動(キャップハンディ)やワークショップをまじえ、「あるがまま」に受け入れ「あたりまえに」接することの重要性を学びます。			
講習計画・内容：			
	内容等	時間	担当教員
	オリエンテーション	8:50	岩永・力久
	1.講義「ボランティアと福祉教育」	9:00～10:20	
	2.講義「コミュニケーションについて」	10:35～10:55	
	3.実技Ⅰ「ハンディキャップ体験」(バリアフリー実践)	11:00～12:00	
	昼休憩	12:00～13:00	
	4.実技Ⅱ「目が見えない生活とは」(ロールプレイ)	13:00～14:00	
	5.講話「目が見えない生活とは」	14:00～15:00	
	6.グループワーク(模擬授業計画を作成)・発表	15:20～16:10	
	7.試験(振り返り)	16:15～16:45	
キーワード：(共感) (複眼的視点) (地域協働)			
成績評価の方法	成績評価は演習中の課題への態度(取組み)、試験の評価等から総合的に判断します		
成績評価の基準	成績評価は、到達目標達成点を100点、試験の点数と総合点で60点以上を合格とします。		
履修認定の方法	成績評価の総合点で合格点に達した受講者に対して履修認定します。		
教科書・教材・参考書	詳細については、講習前にメールにてお知らせします。		
各自で準備するもの	YouTubeでの動画配信を行いますので、パソコン等の受信可能な機器をご準備ください。		
受講上の注意	1.「講習の名称」が同じものは1度しか受講できません 2.視聴障害や聴覚障害などのため、受講に際して特別な配慮が必要な方は、受講申込前に事務局へお問合せ下さい。		